

箕輪町 議会だより

みんこの議会



第83号

2023.2.1



かがやく伝統を受け継いで

箕輪南宮神社山車飾りの準備風景

親しみやすい
議会だよりを
目指して

- 12月定例会 ……P2・3
- 議会日誌 ……P3
- 委員会審査の概要・現地確認…P4・5
- 行政視察 ……P6
- 町政を問う ……P7~19
- がんばってます！「女性活躍井戸端会議」
編集後記 ……P20



議会ホームページ

一般質問の様子を動画で！「町政を問う」の各議員のQRコードを読み取ると動画を視聴できます。

12月 定例会

12月定例会は、12月5日から19日までの15日間の会期で開催されました。

一般質問には、12人の議員が登壇し町政運営を質したほか、一般会計、特別会計、企業会計の各補正予算12件、条例の制定及び一部改正11件の23議案が提出され、慎重審議の結果、全議案を原案通り可決しました。



●補正予算

新型コロナウイルス感染症関連の主な施策

物価高騰生活応援券及び子ども応援券

物価高騰による生活費の増大に対する緊急支援及び未来を担う子どものいる世帯への経済的支援

1億4,653万円

物価高騰に対する福祉事業所及び医療機関等応援金

物価高騰による負担増の福祉事業所及び医療機関等に対する支援

870万円

新型コロナウイルス感染症傷病見舞金増

新型コロナウイルス感染症に感染した国保加入の個人事業主へ傷病見舞金を支給

30万円

貨物自動車運送事業者支援金

燃料価格高騰に伴い貨物自動車運送事業者を支援


500万円



その他、主な補正予算

ソーラーカーポートレート等測量設計業務委託料 711万円	 <p>橋梁長寿命化補修工事費増 2,500万円</p>
地中熱利用空調事前調査委託料 769万円	
ふるさと応援寄付金業務委託料増 7,950万円	
ふるさと応援基金積立金増 1億5,000万円	
若者世帯定住支援奨励金増 1,420万円	特別支援教室等エアコン設置工事 194万円
老人福祉施設入所措置費増 373万円	農業用水路災害復旧工事 319万円
障がい福祉サービス給付費増 8,088万円	財政調整基金積立金増 6,000万円
松くい虫伐倒駆除業務委託料増 566万円	出産・子育て家庭伴走型相談支援事業 3,126万円
町道改良工事に係る経費増 920万円	北小給食室床塗装工事 114万円
小・中学校校務兼学習用パソコン導入業務委託料 490万円	

10月臨時議会の主な補正予算

電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金に係る経費 1億295万円	 <p>もみじ湖観光関連事業費増 1,120万円</p>
生活困窮世帯緊急支援金 2,800万円	
文化センター空調設備等設計業務委託料 989万円	

● 条例改正

箕輪町森林ビジョン検討委員会設置条例制定

町の森林の利用促進及び林業の振興を図るため検討委員会を設置

箕輪町職員の定年等に関する条例の一部改正

職員の定年を段階的に65歳まで引き上げるもの

箕輪町一般職の職員の給与に関する条例の一部改正

定年引き上げに係る地方公務員法の改正に伴う改正

箕輪町職員の育児休業等に関する条例の一部改正

定年引き上げに係る地方公務員法の改正に伴う改正

箕輪町公益的法人等への職員の派遣等に関する条例等の一部改正

定年引き上げに係る地方公務員法の改正に伴い

「箕輪町公益的法人等への職員の派遣等に関する条例」

「箕輪町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例」

「箕輪町職員の勤務時間及び休暇等に関する条例」を改正するもの

「箕輪町職員の再任用に関する条例」を廃止する

箕輪町公害防止条例等の一部改正

長野県公害の防止に関する条例の題名改正に伴い

「箕輪町公害防止条例」

「箕輪町雑排水等の規制に関する条例」

「箕輪町下水道条例」の引用条例の題名を改正するもの

箕輪町青少年健全育成条例の一部改正

青少年の定義を満20歳から満18歳に満たない者に改めるもの

箕輪町一般職の職員の給与に関する条例及び箕輪町一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例の一部改正

人事院勧告を踏まえた一般職の職員の給料及び勤勉手当を改定するもの

箕輪町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例及び箕輪町特別職の職員で常勤のもの給与に関する条例の一部改正

一般職の給与改定に準じ、議会議員および特別職の期末手当の支給月数を0.05月引き上げるもの

箕輪町パートタイム会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例及び箕輪町フルタイム会計年度任用職員の給与に関する条例の一部改正

一般職の職員の給与改定に準じ、パートタイム会計年度任用職員及びフルタイム会計年度任用職員の期末手当の支給月数を0.10月引き上げるもの

箕輪町公園墓地条例の一部改正

合葬墓地の焼骨の埋蔵に関する預託に際し、合葬式墳墓使用料とは別に埋葬手数料を新たに1万円以内と定めるもの



議会活動日誌

議会活動の一部を紹介します

10月

- 3日 伊北議員研修会
- 6日・12日・13日 議会広報特別委員会
- 17日 議会運営委員会臨時会
- 21日 上伊那広域連合管内研修
- 27日 女性活躍井戸端会議模擬議会
- 31日～11月2日 総務産業常任委員会 研修視察

11月

- 14日～15日 福祉文教常任委員会研修視察
- 16日 定例協議会
地元県議との意見交換会
- 24日 議会運営委員会

12月

- 5日 12月定例会開会
- 12・13日 一般質問
- 13日 議会運営委員会
- 14日～15日 委員会審査
- 19日 12月定例会閉会
- 13日・22日・27日 議会広報特別委員会

総務産業 森林ビジョン検討委員会設置条例制定

森林ビジョン

問 近隣のどこかに類似の組織はあるのか。

答 森林（もり）ビジョンを伊那市が持っている。同じ山のことなので、ひな形にしている。伊那市は3年かけて検討したと聞く。仕組みとしては伊那市を視野に入れている。任期は3月から委員募集、4月から検討開始。9月に提案を作りたい。町内の山の関係者、生産森林組合の方、区有林・事業体の皆さんにも意見をお聞きして道筋をつけていきたい。15名の枠の中で委員会組織をつくりたい。

総務産業 令和4年度水道事業会計補正予算（第3号）

水道メーター検針

問 水道検針システムの内容は。

答 検査の際に現場に持っていき各メーターを読む際に使用する手持ちの検査システム。プリンターとしての機能もある。また、固定資産取得費で要求しているハンディシステムは料金を算定するのに必要な役場水道課内にある料金計算用のソフトのことである。



水道料金検査用ハンディ

総務産業 令和4年度一般会計補正予算（第8号）

もみじ湖周辺整備

問 「もみじ湖紅葉祭り」の対応は。

答 交通誘導など必要人数が確保できないという事で職員全体で応援する体制を整えた。

問 「もみじ湖周辺植樹事業消耗品」の明細は。

答 いろはもみじ 80本、はな桃 16本、添え木、獣害防護用ネットである。将来的には、いろはもみじを主にしたい。イベント広場東の「冒険の丘」に、いろはもみじを植えてきている。標高差を利用した観光の拡大、イベントをからめてゼロカーボンの啓発につなげたい。



もみじ湖シャトルバス



もみじのトンネル

交差点改良

問 用地測量等業務委託料 470万円の内容は。

答 木下原町交差点の右折レーンの設置のための平面測量作業分である。

現 地 確 認

合同現地確認

総務産業常任委員会
福祉文教常任委員会

松島大原公園墓地下内
合葬式墓地(蔭原の丘)



日 時 12月15日
出席者 12名

総務産業 常任委員会

令和3年8月豪雨
災害復旧工事予定現場



日 時 12月15日
出席者 6名

福祉文教常任委員会

北小学校給食室床塗装
工事、中間教室、北小
学校付近地下道



日 時 12月14日
出席者 7名

地域交流センター屋上
雨漏り修繕、博物館



日 時 12月15日
出席者 6名

査の概要

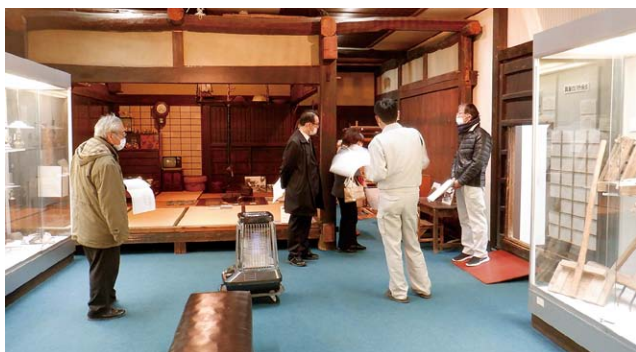
福祉
文教

令和4年度一般会計補正予算(第8号)

博物館耐震化

問 博物館耐震化に伴い、資料収蔵施設管理費のうち、大型部品等の運搬委託料移動経費の内容は。

答 大型絵画や展示ケース等で、不要になったブルーシートなどの処分経費。



「やまほいく」補助金

問 「やまほいく」利用料軽減補助金の内容は。

答 県の自然型保育料軽減事業を活用する。「やまほいく」に認定された保育園に在籍する子どもの保護者に月 25,700 円を上限に補助する。県が2分の1、市町村が2分1、近隣では伊那市の「はらぺこ保育園」のみである。来年度から認定こども園になるため、今年度までの補助。補正は2家族3人に対する補助となる。

「やまほいく」：豊かな自然環境や地域資源を積極的に活用して様々な体験活動を行う県の信州型自然保育制度の愛称です。



中間教室

問 中間教室の状況は。

答 改築か、新築するかを検討していく。場所は非常に良いが、課題は午後日陰になることである。改築の補助では児童館などのメニューが考えられる。耐震診断の結果次第で方向性を出したい。利用状況は中学校にF組をつくったのでそちらに移った生徒もいるので減った。小学生5~6人。中学生数人。指導員は3人。



学校のエアコン設置

問 小中学校のエアコン設置状況は。

答 普通教室は100%設置されている。特別支援学級や多目的教室など少しずつ進めている。利用時間や利用人数に応じて設置を進めて行く。

福祉
文教

令和4年度国民健康保健特別会計補正予算(第3号)

感染症傷病見舞金

問 新型コロナウイルス感染症傷病見舞金の実績は。

答 国保に加入している個人事業主が対象で感染した人に支給される。5万円を4人計20万円支給した。今後6人分を見込み増額補正をした。

保険基盤安定繰出金

問 保険基盤安定繰出金745万円減となった要因は。

答 低所得者に対して減額したものに財政措置がある。当初の見込みより少なかったため減額補正をした。

福祉
文教

令和4年度介護保険特別会計補正予算(第3号)

問 高齢者実態調査業務委託料の内容は。

答 令和6年度からの9期介護保険事業計画の前段として実施する。高齢者要介護支援を受けている人で、施設に入所していない方840人と元気な高齢者400人を抽出してアンケートを実施。

行政視察

総務産業常任委員会

期日：10月31日～11月2日

参加：金澤委員長、中澤千夏志副委員長
萩原委員、岡田委員、小出嶋議長



岡山県西粟倉村 (10/31)

『百年の森林事業の挑戦』を研修。「約50年生にまで育った森林の管理をここで諦めず、村ぐるみであと50年がんばろう。そして美しい百年の森林に囲まれた上質な田舎を実現していこう。」「森林事業は心と心をつなぎ価値を生み出してゆく『心産業』、村の資源である森林から産業を、そして仕事を生み出していこう。」の理念を学習。全館地元産木材を使った「あわくら会館（役場庁舎含む）」及び「CLT工法トイレ」を視察。「木」の持つ力を実感。



全館木材を使った西粟倉村庁舎

兵庫県淡路市 (11/1)

関西国際空港建設など大阪湾の人工島を築くために土砂採取したエリア。「人間の経済活動のために壊してしまった自然を人間の手で本来の姿に戻し、動植物と人間が共生できる空間を創造した『淡路夢舞台』」の理念説明を受ける。開発の爪痕に自然を再生しながら、人々の新しい交流のステージを創造することは、すべての環境学習に通ずると感じた。



淡路夢舞台の理念説明を受ける

兵庫県加西市 (11/2)

メガソーラーの設置に対する規制、影響、課題に関し意見交換。活発な質疑応答が行われた。同じ太陽光発電でも加西市のメガソーラー設置施策と箕輪町の屋根上設置推進のスタンスの違いが浮き彫りに。今後の自然エネルギー利用について様々な角度から意見の応酬が行われた。長野県内では見られない「溜め池浮遊型メガソーラー」・遊休荒廃地へのメガソーラー等視察。



山の斜面に設置されたソーラーパネル

福祉文教常任委員会

期日：11月14日～11月15日

参加：寺平委員長、松本副委員長
釜屋委員、唐澤委員、中村委員



健康のまちづくりの説明を受ける

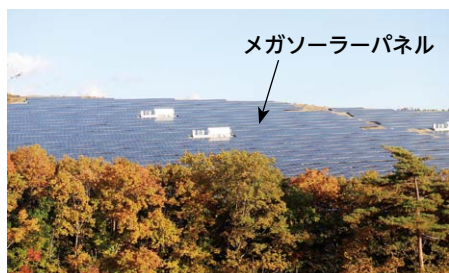
静岡県川根本町 (11/14)

健康のまちづくりの先進事例を視察。減塩による腎臓病予防、早期からのフレイル予防、また対象者に対し全戸訪問を実施するなど人口の少なさを逆手に取った施策で住民意識を高めることに成功、静岡県で取り組む「お達者度」でトップクラスの健康長寿の町になっている。

山梨県甲斐市 (11/15)

太陽光発電事業者に対する行政指導の在り方を視察。山梨県では県が条例を制定しているため市独自の条例制定を見送ったとのことで課題を聞いた。メガソーラーに対する住民からの苦情は反射光の問題が1件。植樹で対応とのこと。

また、甲斐市バイオマス産業都市構想について建設中の木質バイオマス発電所を視察した。年間発電量は一般家庭1万3,000世帯分になるという。



メガソーラーパネル

山梨県甲斐市の太陽光発電

町政を問う

ここが聞きたい



松島追分の道標

(箕輪町指定有形文化財)

ここは伊那街道と岡谷街道の分岐点で追分と呼ばれている。江戸時代の中頃には、岡谷、諏訪を経て江戸へ向かう旅人や、善行寺参りの人々などで賑わった。しかし、今よりも分岐地点が曖昧で、古い道標の文字が消えていたため、道に迷う旅人が多かった。見かねた住民が領主に願い出て再建されたもので、松島追分の地点を示す最古の資料である。



明治時代に建てられた道標

主な質問	議員	ページ
役場前アーケード等町管理施設の環境整備を	岡田建二郎	8
医療・介護施設にマスク等無料支給を	松本 五郎	9
働きやすい町づくりの推進も人口減少対策に	唐澤 敏	10
著しい若者流出、特化した対策が最大の懸案	金澤 幸宣	11
困窮世帯の家計改善支援について現状は	寺平 秀行	12
今後みのわテラスを道の駅にする時期とは	荻原 省三	13
バイオ炭の活用始まる 先の見通しは	中澤千夏志	14
国の出産・子育て応援交付金 早期の給付を	釜屋 美春	15
町で共に暮らしていく為の認知症への対応は	中村 政義	16
地方自治体における安全保障とは	青木 俊夫	17
高齢者が住みやすい町づくりにどう取り組む	中澤 清明	18
人口減少に対する対策の基本方針は	木村 英雄	19

一般質問を動画で
ご覧いただけます



※視聴にはQRコードリーダー (アプリ)が必要です。
 ※動画視聴には通信料が発生しますので、Wi-Fi等の
 利用を推奨いたします。
 ※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

一般質問はどなたでも自由に傍聴できます

一般質問は、年4回の定例会(3月、6月、9月、12月)で、町政全般に
 わたり町長その他の執行機関に対し、自由な質問内容を開会日の翌日
 正午までに議長に通告することとしています。議員一人の制限時間は
 55分で、一問一答方式を採用しています。12月議会では、12月12・
 13日の2日間に、12人の議員が質問しました。

役場前アーケード等 町管理施設の環境整備を

町長 安全性を考慮し管理に努める



おかだ けんじろう
岡田 建二郎 議員



問 役場前のアーケードは、箕中生をはじめ近隣住民や図書館・博物館を訪れる多くの方が利用している。しかし、秋には落ち葉が積もり、一年中真っ暗な通路と化してしまう。更に、大きな枯枝の落下でパネルが割れたり外れるなどしても放置されている。年に一度は落ち葉の除去・パネルの清掃・点検などを実施すべきでは。

町長 町としては、破損など通行の安全に支障があれば修繕を実施している。一定の時期に一括処理をするなどして管理に努めたい。



落ち葉の積もったアーケード



落ち葉を取り除き磨いたパネル

自治会の境界地域の 環境整備を

問 区と区の境で、民家のない地域の側溝や水路が詰まり、雨天時には車の通行や通学児童にも危険な状況にある。橋の排水構造の課題を精査し、改善・改修も含めて安全の確保と管理の徹底を。



橋が冠水し通学路に水しぶきがかかる西県道・昭和橋

町長 区にお願いする部分もあるが、交通安全上の課題として、また通学路の安全確保という点からも町としてやらなければいけないと思う。

物価高・燃油高への 業者支援を

問 先般、酪農・畜産農家の皆さんが農水省へ物価高・飼料高への支援を訴えた。当町の農地を守り、田園風景の維持に多大な尽力をされているのが酪農・畜産農家の皆さんであり、飼料高の影響は看過できない。町の実施した“緊急支援事業”の期間を延長し、更なる支援を講じるべきでは。



物価高・飼料高の影響の大きい酪農・畜産業界

町長 今年の緊急支援は期限を過ぎたが物価高が収束せず、支援の必要性を感じている。10月から12月の3ヶ月分も追加補助し、支援を継続したい。

問 花卉やトマトやイチゴなどの施設園芸農家の方も町内に増えている。町で実施した燃油支援後も燃油高騰の先が見えない。本格的な冬を前に燃油支援も講じるべきでは。

町長 昨年の支援実施時と比較しても燃油高は高止まりしているが、国が新たな施策を講じているので、対象の業者に制度の周知を徹底したい。また、ゼロカーボンの一環としてペレットボイラー等の自然エネルギーの導入補助を来年度から実施したい。

ながた荘の 運営方針の精査を

問 コロナ禍もあり、多くの自治体運営の宿泊施設が見直されている。ながた荘も、今後大規模な改修が想定され、どこまで税金の負担が許されるか問われる時期が来る。今後の運営方針について、住民的な議論やコンサルへの委託など検討すべきでは。

町長 コロナ禍とはいえ2期連続の赤字であり、町民の皆さんの税金を投入する事態を長く続けるわけにはいかない。しかし、町の基幹的な宿泊施設であり、今は精一杯の努力をして運営に努めたい。改修の時期を見据えた町民的な議論は必要と考える。

医療・介護施設に マスク等無料支給を

町長 施設から要請があれば検討する



まつもと ごろう
松本 五郎 議員

問 新型コロナウイルス第8波を迎え、医療・介護事業所に通う高齢者、家族の感染が多い。事業所は利用者宅の訪問時に、感染を防ぐため完全防備で対応している。現在の感染状況から「N95」などの不織布マスクより、高密なマスクを着用介入することもあるが、高額のため小さな事業所では購入は困難。手袋や物品等を消毒する衛生物品の状況を把握し、医療・介護施設への安心体制が取れるよう無料支給を。



利用者宅の訪問時に利用している衛生物品等

町長 事業所から要請があれば検討する。県に対しても状況を伝える。

介護現場人員不足で 大変、助成を

問 コロナ禍の中で各通所事業所を中心に利用者減少となり、大変厳しい状況だ。感染症の発生などで、通所介護等の報酬が減収に対して加算もあるが、医療・介護現

場は大変な人員不足の実態になっている。人件費の補填する額までには至らないのが現状。各施設へ助成をすべきでは。

町長 派遣経費、派遣職員の支給は県の制度の中で実施できている。必要な人材があれば県が現在支援をしていると思う。それを超えて必要なものがある場合は町とすれば応援金を考えて行く。今は人材不足が問題だ。

75歳以上医療費 2割負担は何人

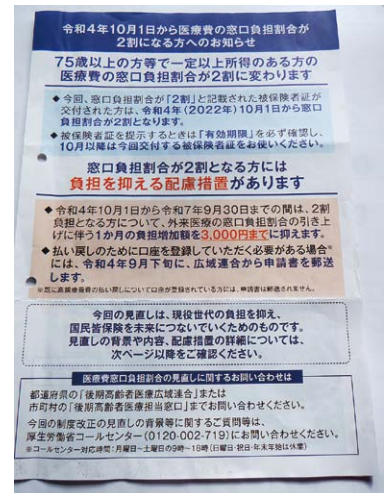
問 今年の10月から75歳以上医療費窓口負担が2割になった。単身世帯で年収200万以上、夫婦世帯では320万以上の方が対象になる。町では何人、何パーセントの方が対象になるか。

町長 743人で18.25%が対象になる。

理解策を工夫し、 対象者に周知を

問 2割化に伴い、「激変緩和措置」がある。期間は3年間。上限は3,000円、差額が出るため口座登録の必要があるが、分からない方が多くいると思う。理解策を工夫し、対象者に周知すべきでは。

町長 これらの保険者は県の後期高齢者医療広域連合になるので、



長野県後期高齢者医療広域連合から
対象者に送られてきた通知

町とすれば広報等を通じてと思う。広域連合から直接口座登録の申請用紙が送られ、町の窓口へ提出をしていただくようになる。

補聴器購入費 助成制度の進捗は

問 高齢で耳の遠い方は仕事や集会等の生活の中で気まずい思いをしている。補聴器は高額である。前回の町長答弁は時間をいただきたいとのこと。進捗状況は。

町長 あまり時間をもらってはいけませんが、国の議論を待ちたい。制度論をもう少し議論した上で、必要であれば助成措置を展開していくと思う。本来、公費負担の範囲を決めた上で、助成措置を自治体がすべきと思うので、この問題をないがしろにするつもりはない。理解をいただきたい。

働きやすい町づくりの推進も 人口減少対策に



からさわ さとし
唐澤 敏 議員



町長 女性活躍の取組や成果を拡大する

人口減少対策

問 当町における出生数の減少状態についての受け止めは。

町長 全国的には80万人を切る見込みのようだが、当町でも今年度の予測数値は135人程度と大変厳しい状況にあり、対策が急務と思う。

問 子育て世代の所得と出生率の関係については。

町長 雇用の安定や安心感が出生率の低下に影響しているのではないかと考えている。

問 当町の就業構造についての見解は。

町長 男女とも若年層に非正規の割合が高く、所得の面からみて出生率に影響する可能性がある。

問 少子化に対応するなかで、働く人たちに目をむけて、働きやすい町づくりの推進に力を入れていく必要があるのでは。

町長 働きやすい町づくりは重要なポイント。男女共同参画を推

進する意味で、女性にとって働きやすい場づくりの政策を実施してきた。この取り組みや成果を男性や高齢者も含めて拡大し、制度化できないか検討したい。また、自宅などで簡易的な起業や創業を望む人への支援を検討していく。多様な働く場を設けることが必要と考えて、働き方の施策を展開する。

問 子育て世代支援の課題は。

町長 子育て世代にとって地域とのつながりは重要であり、小学校単位レベルで居場所ができることを目指している。また、仕事と育児の関連性を考えた制度設計や切れ目のない支援に対応するため子ども相談室の見直しも必要になってくる。

問 社会増対策の今後は。

町長 住宅と仕事の確保の両立とともに、生活環境や町のイメージを上げていく必要がある。宅地開発の推進が課題であり、家賃補助の方策も考えていく。

問 都市と農村の交流促進は。

町長 豊島区との交流が一段階レベルアップする段階にきている。将来を見据えて大学等も含めた地域間交流を進めていきたい。



都農間交流促進の一環としての
「としまの森整備事業」

経済再生対策

問 個人事業主、とくにフリーランスの方々への支援は。

町長 そのような希望がある方に対応する支援策を整えたい。

問 農業振興拠点としてのプラットフォーム構築の推進は。

町長 みのわテラスの機能を強化して、小規模農家への支援の起点としての位置づけも持たせたい。

問 労働者協同組合の育成は。

町長 農業分野での協同労働の設置は、小農支援などで一つの方策として考えられ、先進地をみながら方策を研究したい。



箕輪町産業フェアに出店した箕輪中学3年生たち

その他の質問

- 「人への投資」の取り組み
- 農業ヒーリング的なワーケーションの展開
- 森林ビジョン策定の方向性

著しい若者流出、特化した対策が最大の懸案



かなざわ ゆきのぶ
金澤 幸宣 議員

町長 色んな施策を組み合わせ取り組む



問 上伊那全体直近8年間のデータで20-24歳の人口流出が著しい。特に女性は男性の2倍強。女性の減少寄与率はなんと81%。この改善が最大の懸案。町の現状とこれに特化した施策は。

町長 箕輪町の直近月は社会増が73人で県内77市町村で最多。直近8年間では46人の転出超過になっているが、中高年では転入増である。しかし、転出ピークは男性10代後半で74人、女性20代前半で128人。男性のUターンは見られるが女性は極めて少ない。SNSを活用した若者向け情報発信で将来の居住地選択にこの地域を入れてもらう等の施策を実施中。

問 現役女子学生へのアンケート・聞き取りでも自身のキャリア支援、子育て後の仕事確保を強く望んでいる。事業所と連携した就労の受け皿改革を。

町長 職住近接が理想だが、広域で選択肢増が必要。若い女性の価値観、仕事や結婚に対する考え方が企業とマッチングしていない。キャリア教育やクラウドソーシングで解決策を探っている。色んな施策を組み合わせでも取り組んで行く。

問 少子化対策としての婚姻率向上の具体的施策は何かあるか。

町長 現状結婚にまで行政が踏み込んでいる。出会いの場確保、結婚に関わる負担軽減支援が必要。

花もも街道 通学道路の安全対策は

問 Japan Alpus Cycling Roadの矢羽根マークが、突如、西小学校グリーンベルト沿いに出現した。通学路の安全対策は。

町長 道交法改正により自転車を車道の左側通行するよう誘導、歩行者事故削減、自動車ドライバーへの注意喚起目的で県が設置。しかし、設置経過、住民への周知が全く不十分。制度論として安全性

向上目的と理解してもらいたい。



Japan Alpus Cycling Roadのルートガイド看板と矢羽根マーク(ブルーウィングとも言う)

問 矢羽根マーク敷設は地元自治体負担と聞くと聞くと、東側ルート町道15号~61号の施工予定及び予算は。

町長 統一感として望ましいが、県から具体的な正式要請はない。現時点で設置は予定しない。費用捻出も考えていない。

ゼロカーボン構想 諸策の見通しは

問 太陽光発電設置:100件/年は非常に高い目標と感ずるが、過去実績から見通しはどうか。

町長 住宅用太陽光発電の徹底的普及を目標に重点対策加速化事業として実績値の倍増を掲げた。蓄電池はかなり難しいが、CO2排出60%削減の大目標があり掛け声を高くした。

問 役場EVのカーシェアリング導入の方向性はないか。

町長 あまり検討したことはないが、住民にEVを体験してもらおう方策として面白い。移住体験住宅に付いては、そういう方向で活用を考えなければならない。EV導入に合わせて仕組みを作りPRIに繋げたい。

問 ゼロ・カーボン推進は、災害時の避難所等への電気供給など防災との関わりも多い。関係部署も多岐に渡る。2050年に向け取り組む案件は増える一方。「ゼロ・カーボン推進室」は独立させるべきでは。

町長 本年度設置したばかりで1年かけ状況を研究中。室または・・・の対応でいいか。単に「課」を作ればいいと言うものではない。独立はともかく、体制は強化しなければいけない。人員体制強化が兼任か方法はこれから考えるが、強化せざるを得ない。そうしないと進まない。

その他の質問

- コロナ禍による高齢者施設の受け入れ中止
- 令和3年度学校保健統計調査のコロナ影響

困窮世帯の家計改善支援 について現状は

町長 令和4年度11月現在で399件



てらだいら しゅうこう
寺平 秀行 議員



問 困窮世帯の家計改善支援について、厚生労働省は生活が困窮している世帯の家計改善に向けて、債務整理や家計簿作成などの支援の実施を都道府県や福祉事務所を設置している市町村に義務づける方針を固めた。箕輪町では、以前から家計改善支援を実施していると聞いている。現状の取り組みと今後は。

町長 現在の実施状況は、社協からいただいた数字によると令和3年度で723件、令和4年度11月末現在で399件の家計相談を受けている状況である。短期で解決するような問題ではないので、長期的な支援が必要だと思う。市町村義務になった段階で町としての実施すべき内容が出てくると思う。それらに基づいて家計改善支援を進めてまいりたい。

国民保護計画、進捗は

問 武力攻撃やテロ等の武力攻撃事態が発生した場合に対応できるよう、町には箕輪町国民保護計画がある。この中で設置されている国民保護協議会の開催について、町長より6月議会において協議会の開催については検討したいとの答弁があった。その後、長野県の阿部守一知事が県議会9月定例会で他国の侵攻や侵略、ミサイル攻撃など、国民保護法の武力攻撃事態を想定した訓練の実施を検

討する考えを示すなど、新たな動きが見られる。現状の進捗は。

町長 県の計画に基づいて、町の国民保護計画は見直しをする必要があると思っている。協議会の意見を求める必要があるので、開催を考えている。できるだけ早期にと思っているが、国の指針の中で市町村があらかじめ避難経路や手段等を記した避難実施要領を作成するように努めろとなっている。これについては早急に対応する必要があるので具体策として取り組まざるを得ない。国際情勢が大変厳しい状況もあるので、町として町民の皆さんに見える形で具体的な取り組みを示していく必要もあると思っている。計画の見直し作業に入っていきたい。

高齢者の交通安全、取り組みは

問 最近車を運転していて、高齢者の歩道からの飛び出しが多いと感じる。おそらく本人は走っているつもりだと思うが、車のスピードについていけないし、とても危ない。交通事故総合分析センターの分析によると、「全国の交通死亡事故の4割が歩行中の事故である。歩行中の事故のうち7割が高齢者である。しかも、その高齢者の歩行中の事故については、横断歩道

以外の場所を横断中に自動車と衝突する事故が半分以上」との分析があった。高齢者の交通安全について、現状と取り組みは。

町長 歩行者の死亡事故は日没から2時間以内の発生が非常に多い。やはり日没後の外出時に夜光反射材等をつけていただくといった啓発の必要性を感じている。町の広報誌や75歳以上の鶴亀講座などで啓発しているが改めて必要かなと思う。コロナ禍でなかなか難しいが、各区の長寿クラブの中で高齢者の皆さんに安全の必要性、夜光反射材の着用も含めて対応させていただきたい。高齢者の事故の占める割合が多いので、それへの備え、併せて四車線化されて時間のかかる横断歩道、距離のある横断があるので、具体的な指導というものが必要かなと思っている。

中学校文化部の指導者確保策は

問 中学校文化部の地域移行について、博物館を受け皿にして指導者をお願いするというのも一つの考えと思うが。



教育長 そういったニーズを持った生徒もいるということは考えられるので、視野に入れながら今後考えさせていただきたい。

今後みのわテラスを道の駅にする時期とは

町長 私の任期中に方向性が出せれば



おぎはら しょうぞう
荻原 省三 議員

問 9月の答弁の中で「みのわテラスを道の駅にしていく時期に来ている。」という発言の真意は。

町長 にこりこー帯のリニューアルを進めるにあたってみのわテラスを道の駅化する議論がされた。しかし、まずは町民の皆さんが使いやすい場所にしていくことが一番であり、次の段階として観光面を含め町民だけでなく多くの皆さんに来て頂ける場所にするという二段構えでやってきた。一段目の部分はある程度の方針ができたと思う。次の段階でやはり道の駅ということになる。施設周辺の果樹団地化、観光農園化などの方向性が決まった段階で道の駅化する時期が来ることを想定している。一定のスケジュールで実施するわけではなく、任期中にそういった方向性が出せれば良い。可能性は十分ある場所だと思う。

テラスの駐車場問題と大収穫祭は

問 みのわテラスの駐車場問題と11月19、20日に行われた大収穫祭、過去のイベントの反響は。



みのわテラス朝市「大収穫祭」

町長 みのわテラスもコロナ禍でオープンし2年目であるが認知度は上がってきている。駐車場は既存のもので約100台と通常営業では足りているが、イベント時や秋の最盛期については全く足りない深刻な状況である。来年度は公園の北側に60台分の駐車場の設置を予定している。



みのわテラス北側

副町長 11月の大収穫祭は昨年度比、来場者数と売上ともに3割増だった。4月からのイベントで換算すると、多い時で来場者数1,000人以上となり昨年度比110%となっている。出店者側から感染対策の上で開催して頂き感謝している。非常に楽しかったという声を多数頂いている。

旧木下保育園の再利用は

問 地元の皆さんが旧木下保育園の再利用を検討している。高齢者から子育て世代まで地域の憩いの場として、耐震を含めて改修し使えるようにして欲しい。

町長 区とは新園建設の段階から協議をしてきた。去年の6月に常会に意見を伺い11月に結果を提出したが、再利用の具体的な方向性は持っていないと判断している。現時点で施設は解体し住宅地としての活用予定。改めて区には打診するが、町が施設の改修を行い貸し出すことは考えていない。



木下北保育園跡地

小中学校のトイレの洋式化は

問 小中学校のトイレの洋式化を今後さらに進めていくべきでは。

教育長 各学校の使用状況を確認しながら少しずつ改修し、多くの児童・生徒が使用しやすいトイレにしていきたいと考えている。



なかざわ ちかし
中澤 千夏志 議員



バイオ炭の活用始まる 先の見通しは

町長 CO₂排出削減という意味で期待

問 バイオ炭で二酸化炭素の削減の取り組みが箕輪町とJA上伊那で始まっている。伊那市では南福地ファームが実証実験を担い、麦・小麦・大豆・米作にも活用する計画だという。

箕輪町でも小中学校の給食用に、富田地区では玉ねぎ、福与では玉ねぎ・じゃがいも栽培に活用している。バイオ炭を農地に撒く事で二酸化炭素を炭に閉じ込めて大気中への放出を減らす効果があるという。

箕輪町みどりの戦略課は3か年計画で来年はソバや果樹園などにも広げたいと述べているという。3か年計画の見通しは。

町長 CO₂排出削減という意味で農業分野で期待できる。富田や福与の玉ねぎの圃場を確認させていただいた。

副町長 この取り組みはバイオ炭活用に「三方よしのプロジェクト」と呼ばれる。生産者・消費者、地域にとって良いという事で箕輪町も参加させていただいている。

3年間の見通しとして生産・流通・消費段階の課題を洗い出し持続的な取り組みができるのか実証実験をすすめてまいりたい。



開発が期待される西天竜

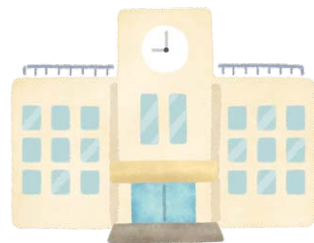
西天竜で小水力発電と太陽光発電を

問 信州もみじ湖発電所が11月稼働した。豊かな水の恵みから生まれた電気の供給を通じて生活を支える資源が増えたと言われる。さらなる水資源の活用という意味で、西天竜を活用した小水力発電と太陽光発電の施設を検討されては。

町長 小水力発電については落差がほとんどない事、設置しても採算が合わないというのが県企業局の見解。水路から水があふれるリスクも高い。太陽光発電施設は極めて斬新なアイデア。土地改良区にも相談していく。

最多になっているのが現状。自殺者も現在増加中。箕輪町の現状は。

教育長 不登校は昨年度小中学校ともに増えたが、今年度は中学校で減少傾向、小学校はほぼ横ばい。子ども同士が人間関係を築けない部分があるなど孤立傾向が進んだ。コロナの影響も少なからずあった。居場所づくりの取り組みを大事にしている。一方分かる授業安心できる学級づくりはまだ途上。今後も更に力を入れていきたい。

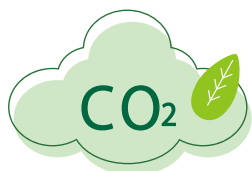


小中学校の不登校やいじめの現状は

問 小中学校の不登校やいじめ件数が全国的に増加している。2021年度に30日以上不登校だった児童生徒が1年間で4万8,000人。24%増加し24万4,940人と過去

その他の質問

- 萱野高原の名称が登山客に不評、「萱野山」に変更できないか
- 矢羽根型の自転車マークの設置目的について周知を
- 深層崩壊の調査と情報共有化



国の出産・子育て応援交付金 早期の給付を

町長 令和5年1月から現金給付を実施



かまや みほる
釜屋 美春 議員

問 国は支援が薄い0～2歳児の子育て家庭の経済的支援のため、妊娠時5万円相当・出産時5万円相当を給付する「出産・子育て応援交付金」（応援ギフト）を自治体の創意工夫により実施するとしている。箕輪町の給付の方法と実施時期は。

町長 国の基本路線は、出産育児関連用品の商品券や妊婦健診の交通費、ベビー用品の購入商品券などとしているが、地域に店舗が少ないことやクーポンの印刷、関わる時間等を考えると当面は現金給付とし、令和5年1月から実施する。



子ども未来課にある「子ども相談室」

問 伴走型相談支援の充実を条件としているが、今後どのように充実をしていくのか、また望まない妊娠や予期せぬ妊娠、死産・流産された妊婦の心のケアは十分にされているか。

町長 伴走型相談支援は行っているが、課題は出産直前8ヶ月時点の訪問・面談は里帰り出産等あり難しい面もある。アンケートかオンラインなのか今後考えていく。

流産はわからないのが現状。死産は年4～5件ほど。電話相談等の周知もする。

新生児スクリーニング 検査補助を

問 令和4年10月から治療の方法が確立された事によりオプション新生児スクリーニング検査「原発性免疫不全症」「脊髄性筋萎縮症」の検査が追加された。費用は保護者負担となり現在4,500円が令和5年から6,000円となる。生まれつきの病気を発症前に発見し治療して障害を予防できるように、また経済的な理由で検査が受けられないことがないよう、町の補助制度を求めるが。



新生児は生後2～6日で
スクリーニング検査を受ける

町長 原発性免疫不全症は出生1万人に対し1人発症、脊髄性筋萎縮症は2万人に1人程度の発症と言われかなり稀な病気だが、全ての新生児が検査することが望ましい。来年度予算の中で検討できれば実施したい。

殺処分ゼロに向けた 動物愛護

問 地域猫や多頭飼育について住民からの苦情の現状はどうか。

町長 飼い猫や餌やり猫では庭に糞尿をして困る。小屋を汚している、車を傷つけている等7件ほど。小屋で子猫を産んで育てているが町で対応を。といった相談が6件ほどある。餌やりをしないでとか、糞尿対策では酢やコーヒーがらをまくとか、砂地でなく砂利や雑草地にするなどお願いしている。多頭飼育の苦情はない。

問 伊那保健所との協定ボランティアとして猫のTNR活動（捕獲・不妊去勢手術・元の場所に戻す）や月1回の譲渡会など、犬猫の保護活動をしている動物愛護団体があるが、活動家の経費負担は多いと聞く。自治体からの避妊去勢手術に補助するところが多くなってきているが町の支援の考えはあるのか。

町長 活動している団体の運営状況を見ながら、町としてどこに支援するのがいいのか研究していく。



その他の質問

●女性活躍井戸端会議模擬議会



なかむら まさよし
中村 政義 議員



町で共に暮らしていく為の 認知症への対応は

町長 早期発見・適切な治療を行なう事

問 平均寿命が男女とも80歳を超えるようになった現在、認知症は身近な存在になった。町で共に暮らしていく為に、地域で見守り、つなぐ支援が必要となる。認知症への対応は。

町長 高齢化とともに認知症は増加。認知症になっても、自分らしく安心してらせるまちづくりを進めて行く。まずやらなければいけない事は認知症を早めに気づくこと。進行性疾患であり、完治できる薬とか治療というものはないが、早期発見、適切な治療を行なうことで病気の進行を抑えたり、生活の質を維持するということで、気づきというものが必要。

問 町で数多くある認知症対応について、町民への周知度は十分か又「認知症高齢者等見守りシール交付事業」の内容は。

啓発は広報、町ホームページ、地元新聞等あらゆる手段で行っている「認知症高齢者等見守りシール交付事業」は令和3年10月から実施。行方不明が心配される方は事前に登録、衣類等に貼る見守りシールを配布、シールにはQRコードがあり、携帯電話で読み取ることで、現在いる場所が、家族、町支援センターにメールが自動的に届く仕組みとなっている。

問 2025年には高齢者の5人に1人が認知症を有すると推定されている。町として今後の取り組みは。

町長 サポーターの養成、家族会等の充実を進め、地域の中で見守るつなぐの体制を強固にする。認知症の正しい理解を進めることが求められる。

建設課長 春日街道との交差点東側のところは、路肩幅が大体80センチくらい、道路と水路との高低差がかなりあり、注意喚起の意味合いでガードコーンを設置。道路改良、歩道設置が望ましいが、隣接の土地所有者と対応等を現在協議中。暫定的な措置として、側溝への蓋設置は、生活用水や防火用水の水路という事で、完全蓋設置の実現は難しい。

箕輪町防災施設の概要は

問 防災交流施設の概要、11月14日地元住民説明会後、検討は。

町長 地元説明会での主な意見としては、災害時の避難所として何人程度収容できるか、地震災害想定では、ガラス鏡使用が多いのでは、全国的に子どもの転落事故が多いがその点への配慮は、いただいた意見・要望については、設計の見直し、またできる範囲で改善を検討。

町道6号線（中学校～春日町信号）の安全対策を

問 町道6号線、役場南側道路の中学校から春日町信号機までの間、側溝等の安全対策を。



認知症高齢者見守りシール

福祉課長 認知症ガイドブック、認知症のケアパスといった冊子を作成配布。支援体制を構築、周知



町道6号線春日町信号機付近

地方自治体における 安全保障とは



あおき としお
青木 俊夫 議員

町長 「箕輪町国民保護計画」が策定されているが



問 災害や避難情報を正確、かつ迅速に住民に伝えることは、被害を最小限にする為に極めて重要。Jアラートとはどんな警報なのか。

町長 全国瞬時警報システムで弾道ミサイル情報、緊急地震速報など、対処に時間的余裕のない情報を市町村の防災行政無線などで住民の皆さんに国より瞬時に伝達するシステムである。

問 発令された場合の避難所とはどこなのか、避難方法をどうすればよいのか、住民は極めて不安であり対処の方法が分からない。災害が想定される場合は避難所が開設される。現状での避難所とは、誘導または対処方法は、町民に周知の必要性は。



テレビで速報されたJアラート

町長 避難に関しては「箕輪町国民保護計画」により、県から避難指示の通知があり、住民の皆さん、関係機関への通知を行う。具体的に現実として起きたことが無いため避難方法等十分に把握されていないし、周知をしていない部分もある。

問 町防災交流施設の将来構想としての役割は地下空間の活用など、有事の際を想定した基本設計は今後必要では。

町長 緊急時、有事災害時に使える施設であるが、有事の際の施設づくりをするという町でのコンセンサスはあまりないし住民の皆さんの要望も今は無い。

問 万が一の有事の際、住民の安全確保や避難誘導など地域住民が「備えの準備」をすることなど「箕輪町国民保護計画」が策定されているがどのようなものなのか。

町長 武力攻撃事態等における箕輪町住民保護のための措置に関するもので平成19年に策定された。組織体制の整備などを含め、平素からの備えや武力攻撃事態への対処、また復旧等について記載。国、県から連絡があった際に直ちに町に対策本部を設置。職員を参集し対策本部を開設するもの。

問 平素から準備を怠らないことや有事の際、具体的な避難所、避難指示や対処方法のメッセージを住民に丁寧にわかりやすく伝え、周知すること等が書かれているが。

町長 所属部署単位で活動し、それぞれの業務は決められているが、実際に具体化したことは一度も無い。改めて当時作った住民保護計画の趣旨を見極める時期でもあるのではと思う。

3期目の町政で 目指すものは

問 3期目の町政を目指す中で、時代が求める、地域が求める、今やらなければならない町政とは。

町長 最近の地方公共団体の事業の内容とか、組み立て方はモデル事業とされるような華やかな事業があり、多くの住民の皆さんに直結しないような多額の予算付けがされる事業がみえる。施策の優先順位を間違えることなく、私自身含め、職員には今やらなければならないのは一体何なのかを十分に考えて頂きたいということ。

少子化に歯止めをかける 思い切った施策を

問 少子化の背景には、私達一人一人の人生の選択があり、子どもを生きやすい環境や働き方はどうなのか、子どもの成長を受け入れる制度が整っているのかどうかである。社会の在り方が少子化を食い止める等、町の施策が与える影響は大きいものがあると思うが。

町長 基本的な考え方は子どもを育てるのは社会の責任でもあると同時に家族、保護者の責任でもある。子育て世代の負担軽減については予算編成の中で議論を深めていく。多子世帯についてはもう少し切り込む必要があると考える。

高齢者が住みやすい町づくりを進めるべき

町長 町としてできることはしていく



なかざわ きよあき
中澤 清明 議員



問 団塊の世代が後期高齢者入りし、急増する医療や介護の需要に制度崩壊の危機が言われる。今の高齢者は高度経済成長を支え、世界に誇る日本を作り、老人医療費無償化など高度福祉社会の元を作ってきた世代である。しかし今の高齢者を取り巻く医療福祉は厳しく割り切れないものを感じる。①高齢化に伴う課題は国家的問題ではあるが3期目町政でどう取り組むのか。②年金だけでは暮らせない生活困窮者が一層増加する。どう支援していくか。③医療や介護に行き着けない高齢者をどうするのか。早期発見早期支援についての考えは。④もう少し高齢者の足の確保や介護サービスの充実などを進め、高齢者の住みやすい町を発信したらどうか。

町長 ①元気に暮らしてもらうのが一番の願いで包括的な取り組みはしてきた。介護医療の人材確保、介護施設や医療機関の運営には町としてできることはして、高齢者が住みやすい町づくりをしていく。②高齢者はSOSを出していただけない傾向がある。地域の協力も得ながら必要な保護につなげていきたい。③地域の支え合いの中で探すしかないが、仕組を考えたい。④他市町村に負けることの



ない対応をしているし、国から評価されている取組みもあるので研究させていただく。

ゼロカーボン推進について

問 ゼロカーボン宣言がされたが町の皆で取組まないと達成できない。①町民意識を啓発しゼロカーボンを意識した行動をする運動を展開したらどうか。②農地政策と土地利用計画を見直し、耕作できない農地や公園、雑種地などの緑化を進めてはどうか。③CO₂排出権取引は外国で取組みが進んでいる。町でもCO₂排出権取引について研究してみてもどうか。

町長 ①啓発のリーフレットを作成中で年明けには配布する予定。ゼロカーボンを推進する町をPRしていきたい。②緑化は理解するが農地に木を植えることは出来ない。③CO₂排出権は研究していきたい。

沢大出地区雨水排水対策

問 本年3月の議会答弁で基幹雨水排水下水道に接続し流し込むため、毎年1~2千万円を掛けて側溝整備などの小規模対策をしていく方針が示された。本年度の事業箇所はどこか。中期的視野での事業計画を立てるべきと考えるが。

町長 沢保育園の北側については

幹線水路接続の測量と設計を今年発注し、来年度工事が出来るようにしたい。南側の大沢線部分は今後計画的に実施していきたい。桑沢川については県の河川事業で流入量を減らせないかなどを研究中。

ながたの湯特別割引料金の延長

問 現在の特別割引料金は大変好評で利用者からは延長を望む声強い。コロナで行き場のない高齢者の憩いの場であり、町民の健康増進にも寄与している。コロナが終息するまで延長したらどうか。

町長 好評を頂いているが、3月でいったん打ち切り、コロナが続く段階でもう一度考えたい。

北小通学地下歩道へ防犯カメラを

問 国道バイパス地下歩道を通学する北小児童からは「怖い、気味が悪い」等の声が寄せられている。児童の声をどう受け止め、地下歩道の安全についてどう考えるか。

教育長 現地を見て昼間でも暗く見通しが悪い、死角が多いなど感じた。通学中の声掛け事案も発生しているので、通学上重要な問題と受け止めている。防犯カメラの必要性を感じている。

町長 カメラを早期に設置する。

人口減少に対する対策の基本方針は



きむら ひでお
木村 英雄 議員

町長 新たな施策展開が必要



問 町長は選挙戦に当たり、「豊かさや幸せを実感できる町をつくる」として5つの基本方針と54項目の政策を掲げられた。これらの公約を具体的にどう進めていくのか、多くの町民が期待するとともに知りたいところである。人口減少問題は人口減少とともに高齢化が進む一方、社会活動の主要な担い手となり得る生産年齢人口が減少していることから、単なる総人口の減少以上に懸念される場所である。人口減少に対する対策は箕輪町の将来を考える上で最重要課題である。人口減少対策の基本方針について伺う。



ほどほどの田舎暮らし体験住宅

町長 第5次振興計画を策定し、子育て施策、産業施策、移住定住等々、一定の効果を上げ2万5,000人前後で3～4年維持していたが、新型コロナウイルスの発生と経済状況は大変厳しい状況であった。基本的なベースは出生数減などによる自然減を社会増で補えなくなってきている。これまで取り組んできた施策は一定の効果はあったと思っているが、もう一度見直

しをし、新たな施策展開が必要だと思っている。交流人口や関係人口を拡大するなど、都市の生活と私たちのこの地域での暮らしとは違うのだということを確認しながら、箕輪町で暮らすことの意義とか、地域の良さを伝えていきたい。ソフト面の充実、意識の変換も考えながら施策を遂行する。

子どもに関わる条例制定

問 3月議会で、どんな形にするのが少子対策に対応できるのか、子ども対策に対応できるのか検討するとの答弁があったが。

町長 就任以降、少子対策は最重要課題に位置づけ強化してきた。ここ3年、コロナ禍の影響もあるかと思うが、年間出生数が130人から135人という、考えられない数字となっている。町全体で総力を上げて少子対策に取り組んでいく時期に来ており、条例化の検討が必要だと思っている。子どもを育てる、産み育てることに対して、町としての応援体制づくりに取り組む基本的な施策を掲げた条例制定を研究していく。

その他の質問

- 予算編成
- ワーク・ライフ・バランス
- フレックスタイム制度
- 小児への新型コロナワクチン接種

高齢者の生きがいづくり

問 日本の平均寿命は年々伸び続け、世界有数の長寿国になっている。箕輪町の高齢化率を見ると令和3年度時点で30.2%となっている。国の高齢社会対策大綱によると、65歳以上を一律高齢者と見る傾向は現実的ではない。70歳以降でも意欲や能力に応じた力を発揮できる時代が到来しており、意欲のある高齢者の能力発揮を可能とする社会環境を整えることが必要であるとしている。高齢者は支えられる人というイメージを転換し、長年培ってこられた知識や経験、技能を地域社会で発揮していただくための仕組みづくりが必要と考えるが。

町長 豊かな人生を自分のライフスタイルに応じて、高齢者の皆さんが過ごしている時代となった。個々の高齢者の皆さんが自分の生き方とか住む場所とか、楽しみ方とか、そういったことを広く選択できるような提案を町・教育委員会として提案していかなければと思っている。社会参加の道を開いていくことがこれからの高齢者の皆さんの生きがいづくりでは必要と思う。

誰もが個性と能力を発揮できる町を目指し、男女共同参画の検討、アクションプランの作成や、事業計画に基づく企画運営に対し提案し事業を推進しています。女性や若者が自分の意見を発表する機会を創出することで町政への関心と理解を深めて頂き町政を身近に感じてもらうと、模擬議会を開催しました。

箕輪町内で頑張っている皆さんを紹介

模擬議会開催!! 令和4年10月27日(木)



箕輪町ホームページより



模擬議会の詳細はこちらから
模擬議会の動画を視聴できます



リーダー 柴 茜 サブリーダー 小口 智世 議長 竹内 一真 副議長 浦野 朱美 議員 小幡 直久 議員 須藤 光香 議員 漆戸 智美 議員 荻原 弥生 議員 大澤あまな
(議員は質問順/敬称略)

模擬議会開会あいさつ

リーダー 柴 茜さん

コロナの収束もなかなか見えない中、そして準備期間も大変短い中ではありましたが、皆様のお時間を頂戴して本日こうして模擬議会を開催できることを、大変ありがたく思っています。議会活動活性化委員の議員の皆様、関連部署の皆様のお力もお借りして、女性活躍井戸端会議の皆で検討した率直な意見や提案をこの場を借りて町に対して伝えられることは、とても意義のあることだと思っています。

今回町に対してお伝えすることは、質問者だけの考えではなく委員の皆が伝えたいことであり、またこの場にいない町民の皆様、内容によっては箕輪町という枠を超えて、日本各地のたくさんの人たちの声を代弁したのもあると思っています。

この場がこれからの箕輪町にとって有意義な機会になることを願っています。(抜粋)

模擬議会に対する町長の感想

核心をついた質問、提言に答弁に窮する場面もあった。通告、答弁という議会の中だけでなく様々なご提案についても対話の場を持ちたい。また、それぞれの提案について予算編成にあわせて検討していきたい。

模擬議会を終えて(議会議長)

女性活躍井戸端会議の皆さんと議会活動活性化委員会が協同で、議会を知っていただく活動として、町民参加型の模擬議会が開催できました。町政に対し、様々な立場からいろいろなご意見を「一般質問」という形で、質疑応答を体験していただきました。

これを機会に、町議会への関心を高めて、町議会議員を目指していただける方が出て、議員のなり手不足の解消に繋がっていただければと期待します。

編集後記

今回は箕輪南宮神社、初祭りの山車飾り保存会の皆さんの舞台づくりを取材(表紙の写真)。冷気のなか飾り付けをしていた舞台は宮本武蔵と大谷翔平のがっぷりと組んだ真剣勝負。時代を超え、二人の生きた時代は違うが、それぞれの時代のヒーロー。宮本武蔵も後年評価されたように大谷翔平も偉大な記録をどこまで伸ばすのか、今や世界中のファンが楽しみにしている。今年もさらなる活躍を期待したい。一方世界では混沌とした情勢が続き、不安は早急には解消される様子はない。我々一人ひとりの覚悟が問われることになる。(青木 俊夫)

議会だよりに関するご意見がありましたらお寄せください。

役場議会事務局 電話79-3187(直)
メールアドレス gikai@town.minowa.lg.jp

[議会広報特別委員会]

- 委員長 釜屋 美春 副委員長 青木 俊夫
- 委員 木村 英雄 / 松本 五郎 / 中澤 千夏志